



## 不安を取り除きたい

～メモリーブック活用～

特別養護老人ホームさくまの里  
入居サービス課 介護員  
別所照巳 / 藤原実希

1

### はじめに



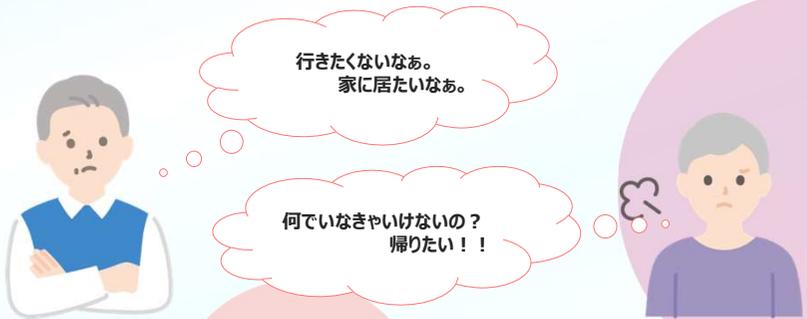
ショートステイの主な利用理由

↓

利用者の身体機能回復・孤独の解消  
介護者の体調不良や急用  
リフレッシュなどを目的としたレスパイト  
(一時的な休息や息抜き)

2

利用者は慣れない場所や自宅から離れることへ不安を抱えている。



行きたくないなあ。  
家に居たいなあ。

何でいなきゃいけないの？  
帰りたい！！

3

### 目的



メモリーブック作成までの取り組みや活用を通し、職員の利用者に対する理解を深めると共に、ショートステイに対する不安を取り除く。

「さくまの里 = 安心できる居場所」

4

## 「メモリーブック」

アメリカの言語病理学者により考案された  
**認知症の方とのコミュニケーションツール。**  
 生まれてからの生活を聴き取り、それに合わせた  
 写真やイラストと共にまとめた一冊のアルバム。  
 認知症の人の奥底に眠っている「思い出」や  
 「言葉の能力」を最大限に引き出す支援方法。



5

## 方法（対象者）



Aさん（女性・90歳台）

要介護 2  
 レビー小体型認知症



Bさん（女性・90歳台）

要介護 3  
 アルツハイマー型認知症



Cさん（女性・90歳台）

要介護 5  
 認知症の既往はなし

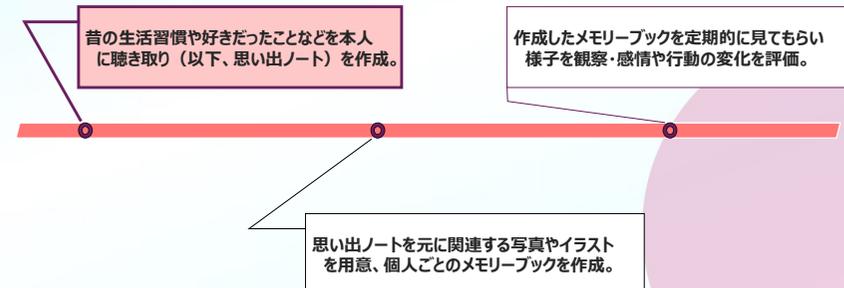
6

## 職員が感じる利用者それぞれの課題

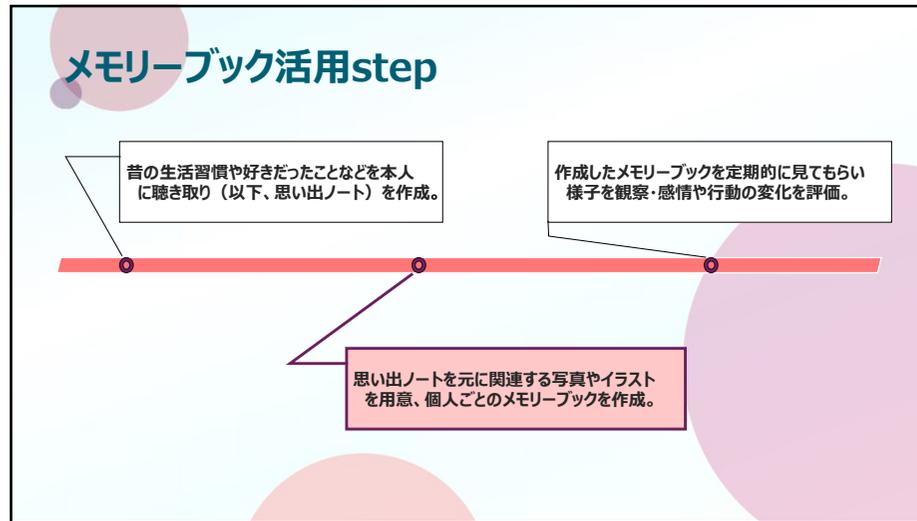
利用中の課題	
Aさん	夕方にせん妄がみられる。「何が何だかわからん」「何でここにいるの?」と不安な声や独り言が多くきかれ、隣に人がいても会話をすることがなかった。
Bさん	普段は穏やかに過ごされているが、帰宅願望強く「いつ帰る? 今日帰る?」と訴えが続くことがある。
Cさん	「あれをやってほしい」「こうしてほしい」と訴えが多い。 「あっち（デイサービス）に連れてって」

7

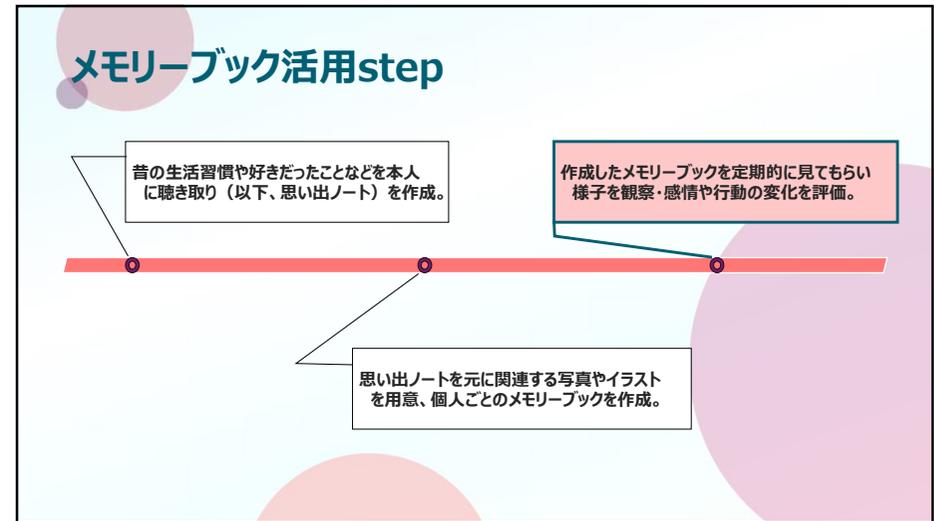
## メモリーブック活用step



8



9



10

倫理的配慮として個人が特定されないよう配慮し、  
研究発表に対し本人、家族の同意を得た。

11



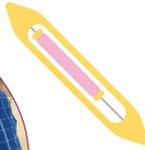
12

## Aさん

- ・「紡績会社で働いてたよ。シャトルが飛んできて怖かったよ。」
- ・他利用者と一緒に見ては「昔はこうだったね。」「私はこんな仕事をしてたよ。」と積極的に話しかける様子が見られた。
- ・**回を重ねるごとに笑顔で話をされメモリーブックを閉じた後でも、昔の話をされるが増えた。**
- ・つらい思い出や人の名前を思い出せないことで落ち込んだり、混乱も見られた。「何でそんなことも分からなくなっちゃったんだろう。」と不安が大きくなる様子も見られた。



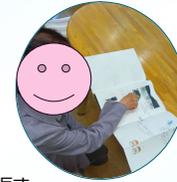
紡績機のシャトル



13

## Bさん

- ・メモリーブックを見ると昔を思い出して話をされるが、「いつ帰る？もう来んでもいい？ずっと家にいたで。」と繰り返す。
- ・日を変え繰り返しみてもらいと、「あれまあ、すごいね。ちゃんと書けたよ。」と思ったよりよかった。おもしろかったよ。」と懐かしそうにされる。
- ・**毎回初めてみるような反応。**テーブルを指でなぞりながら「ここに家があるら、畑があってね・・・電車が通って、川が流れてるら」と昔のことを思い出して、話す姿も見られた。



14

## Cさん

- ・メモリーブックを静かに見てはいるが、すぐ閉じてしまう。
- ・職員が付き添い声をかけると、「これ何だと思う？これはコンニャクの葉だよ。この塊はコンニャクだよ。」と教えてくれる。
- ・畑仕事や土木の仕事をしていた時の話をする。
- ・目に涙を浮かべ幼いころの息子のお話をすることもあり、「こんなに良いものを作ってくれたで、大事にしまっておいてくれ。」
- ・**メモリーブックや思い出に対する新鮮さが薄かった。**

（「アルバムをもらってうれしかった」で終わってしまった）



こんにゃく芋の葉

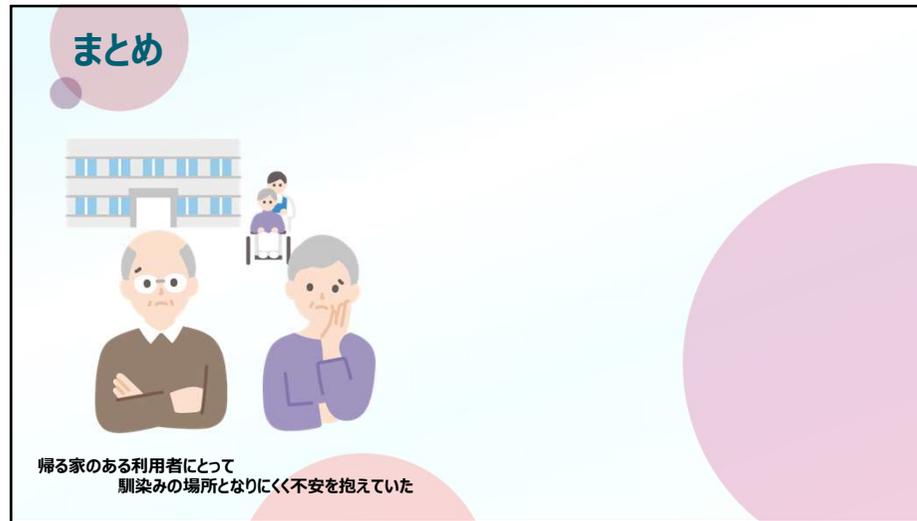


15

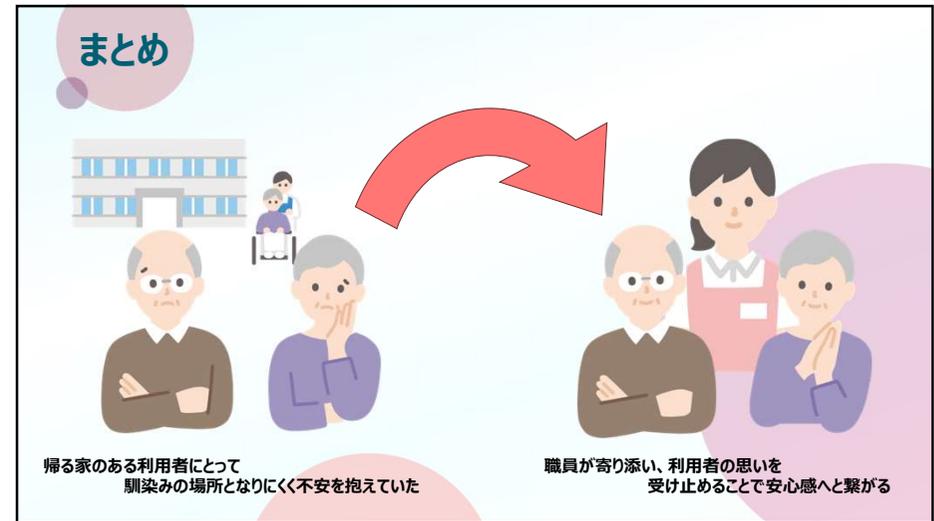
- + 作成する過程では、当時の様子を生き生きと語ってくれる方が多く笑顔がよく見られた。また昔を思い出して涙を流す方もいた。
- + 写真やイラストを通じ、当時を鮮明に思い出せる場面がみられ、より詳しく話を聞くことができた。
- + 職員も利用者向き合う時間が増え、アセスメントだけでは見えない利用者の新たな一面を知ることができた。

「どんな会話が望まれるのか」、「本人のトラウマや触れてほしくない過去」なども理解でき、職員の利用者理解やコミュニケーションツールとしても活用できた。

16



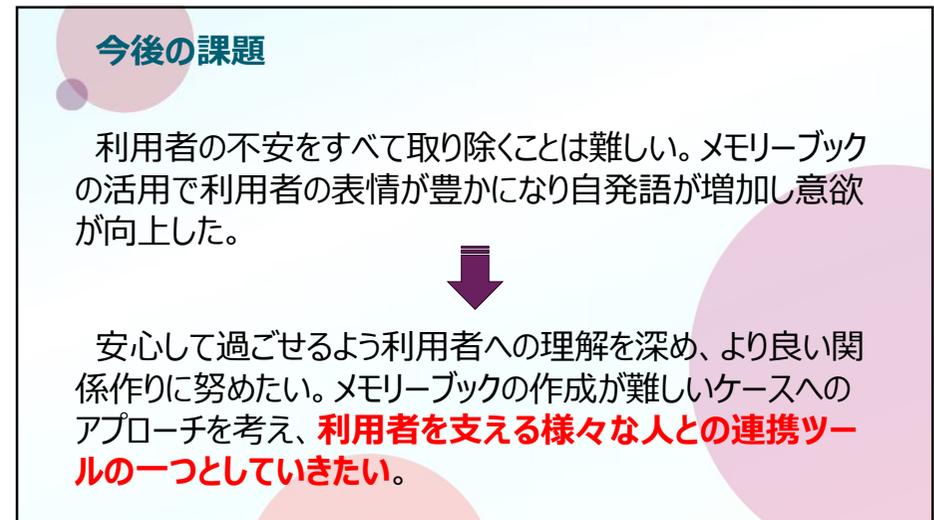
17



18



19



20



**参考文献**

「メモリーブックの活用法」  
効果ある認知症の人とのコミュニケーション

発行 2021年5月10日  
第1版第1刷

著者 飯干紀代子(編著)

発行者 青山 智

発行所 株式会社 三輪書店



**ご清聴ありがとうございました。**